

同窓会長挨拶

本日はお忙しい中、お盆前の貴重な日曜日のお休みのところ、時間をさいいただき、築館高等学校同窓会総会に参加くださいます。誠にありがとうございます。そして、常に情熱を持って頑張ってくれている目黒校長、この栗原市のために昼夜努力されている佐藤市長、また、三好東京支部長はじめ仙台の方からも参加いただいております。心から感謝申し上げます。

私は、同窓会長を仰せつかっております渡邊一正と申します。25回生、昭和49年卒業です。まずもって、熊本地震によってお亡くなりになられた方々、そして被災され怪我をし、未だ苦勞されている方々に、ここからお見舞いを申し上げます。一日も早い復旧・復興を祈念しております。

さて今、地球上の各地で紛争が絶えません。民族、宗教、イデオロギー、経済のグローバル化等のいろいろな要因が重なり、競争が激化しております。多くの人命が失われ、世界中に大きな損傷を与えております。そんな社会情勢の中で日本はといいますと、自由主義がますます声高になっております。セクハラ、パワハラ等が大きく取り上げられ、我々の時代であれば、当たり前と思われたことも、全て悪と捉えられ、思い切ったことのできにくい社会であり、多様化という言葉が一人歩きして、すこぶる住みにくい社会になってしまったと感じています。いつの間にかあまりにも優しい社会国家になってしまいました。私は古い昭和の人間でありますので、このような状況で今後の日本はどこに向かっていくのだろうと危惧しております。

例えば、私立高校の授業料の無償化が始まり、ますます公立高校と私立高校の格差が拡大していくのは間違いありません。少子化時代の中で公立高校に入学する子どもたちはいなくなる。地方には公立高校がいなくなるではないでしょうか。

この栗原も例外ではありません。今でさえ、約4割の中学生が地元の高校に入学せず、他地域の学校に入学しています。優秀な子どもたちが他の地域の学校へ引き抜かれ、伝統と歴史のある学校がこの地域になくなるのではないかと心配しています。

私は高校までは地元の学校で学んでほしいと思っています。自然に恵まれた地元の風土の中で人情豊かな人々とのふれあいから学び、キャパシティの広い活力あふれる若者に育ててほしいと思っています。

そうすることが、それぞれの人生設計の中で、地元に残るもの、日本国、そして世界のために貢献するもの、それぞれの立場で活躍する人材となのだと確信しています。

こんな時代だからこそ我々同窓会は、我が母校築館高校を、県内でも有数の文武両道の学校になるように応援していこうではありませんか。高校が優秀であれば、この地域に良い人材が集まり、栗原がより良い魅力ある地域になることは間違いありません。我々一人一人が我が母校の伝統と歴史に誇りと自信を持ち、築館高校になお一層のお力添えをお願いいたします。我々の後ろ姿が母校の存続に関わっているとも言えます。これからも築館高校を温かく見守ってください。この栗原の未来はいかに築館高校を優れた高校にするかにかかっていると思っています。

最後になりましたが、今回の総会懇親会実行委員としてご協力いただきました、33回生、43回生、53回生、63回生、73回生の方々にここから敬意を表し、また本日ご出席をいただきました皆様方のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。